**台湾工作機械情報**

**2018年７月15日**

**東海大学劉研究室**

* **2018年台灣工具機產業現況與展望　2018年台湾工作機械産業の現状と展望**

国際現物料価格は勢いよく強まっている。産業閑散期を招いている原因が続くことでスマート型携帯の需要不振、勤務日数減少のために４月の輸出、海外販売注文額と工業生産値はともに先月より差が出てきた。そこで影響がある製造業メーカーは、当月景気を見守る方向に転換した。表―台湾工作機械産業の暦年輸出価格数値。

2018年1-3月台湾工作機械輸出総額は8.21億米ドル、去年同期比較19.1％だった。その中で、金額切削工作機械輸出は21.6％成長、金額6.93億米ドル、金属成型工作機械輸出は7.2％成長、金額は1.28％億米ドルだった。

2018年1-3月金属切削工作機械の主な輸出機種は順に、マシニングセンター、輸出金額3.07億米ドル、去年同期比較23.8％成長、旋盤は第二位、輸出金額は1.55億米ドル、去年同期比較17.9％成長した。金属成型工作機械輸出の面では鍛圧、プレス成型機輸出は去年同期と比較して0.8％成長、輸出金額は9,808万米ドルだった。

輸出国家別に見ると、台湾工作機械輸出トップ10市場第一位は中国（香港含む）、金額約2.64億米ドル、去年同期比較13.2％成長、輸出比重は32.2％；輸出第二位は米国市場、輸出額は9,933万米ドル、輸出金額は去年同期比較36.3％、市場全体比重12.1％；トルコは第三位、輸出金額は4,030万米ドル、去年同期比較51.1％成長、市場全体の比重は4.9％だった；その他各主な輸出市場はオランダの輸出成長が明るく75.2％成長した。

2018年1-3月台湾工作機械輸入金額は去年同期比較20.1％増加、輸入金額は2.07億米ドル。金額切削工作機械は30.4％増加、金額は1.80億米ドル、金額成型工作機輸入は20.7％衰退、金額は2,758万米ドルだった。

機種別に分析すると、金属切削工作機械輸入第一位は放電、レーザー、超音波工作機械で、輸入金額は7,413万米ドルで、輸入金額総額比重は35.7％、去年同期比較10.5％成長、主な輸入国は日本、中国（香港含む）、韓国だった。

Gardner Publication, Inc2018世界工作機械産業調査報告（2018 World Machine Tool Survey）によれば、2017年世界工作機械消費価格は約832億米ドル、2016年度と比較して4.3％成長、34億米ドル増加した。これは2011年以来最大の大幅上昇だ。工作機械の主な消費トップ15か国のうち、13か国の消費総額は昨年度より増加、これは2011年以来のことだ。Gardnerは、2017年世界経済の安定した成長を基盤に、2018年工作機械消費は増加し続けるだろうと予測する。

2017年工作機械の主な消費国別は中国、米国、ドイツ、日本、イタリア、韓国、メキシコ、インド、台湾とロシアなどがある。世界の景気や中国経済の転換型による膨大な内需効果を受けて、2017年中国工作機械総体消費量は300億米ドル近く、ほかの消費国を大幅に超えた。中国工作機械産業値は上昇し続けているものの、中国市場の大量需要には追い付いておらず、将来「中国製造2025」計画政策の下、中国工作機械消費は増加し続けるだろうと予測する。

表一、暦年台湾工作機械輸出額(単位:百万米ドル)

* **スマート製造全面起動　2017年天下雑誌2000企業調査**

**AIインダストリー4.0発展の核心**

スイス銀行４月最新調査予測では、2030年AIはアジアに経済価値を持たせ、最高３兆米ドルに達した。最も大きな影響を受ける、金融、健康医療、製造、小売業と運輸業だ。「アジアが欠けていた18世紀の工業革命のようではなく、この度はアジアが重要な役割を担う」とスイス銀は考えている。日本、中国ともすでに自動化政策白書を発布した。

AIは各業種にふたつの面から影響を与える。ひとつは製品とサービス自体の転換；ふたつめはAI運用の製造過程、管理や商業流通上、大幅に産業上昇を促進できる。

世界製造業発展の傾向は集中型大量生産からカスタマイズ化に転換、産業環境の変化に向けて先進国家は関連産業の向上転換型政策を積極的に推し進めている。

新たな市場需要を引き連れる波が訪れる。それは、米国の先進製造パートナー計画（AMP）、ドイツ「インダストリー4.0」、日本「産業再興プラン」、韓国「製造業イノベーション3.0政策」また中国大陸「中国製造2025」だ。

我が国も105年７月に「スマート機械産業推動方案」を通して、精密機械及びICT産業エネルギーを基礎として、スマート機械、ロボット、CPS、Iot、ビッグデータ及びライン管理などの技術と結合して、我が国精密機械を引き連れて「スマート機械」の次の段階に上昇することを期待、国内メーカーがスマート機械を導入できるようサポートし、生産ラインのスマート化を促進、並びにクラウド、ネットを通して消費者とすばやく繋がり、カスタマイズした製品を提供、ネット製造サービス体系をとおして台湾が世界生産製造サプライチェーンのキーポジションとなるようにする。

**天下雑誌2000大企業調査を読み解く**

台湾2000大企業調査は次のように表示している。2017年製造業総営業収益約28兆4130億元で、営業収益成長率は8.44％、2016年、2015年の製造業総営業収益成長率別は-2.84％、-3.4％、台湾の製造業はついにマイナス成長から脱出したが、スマート製造は今後さらなる試練に直面するだろう。機械設備業は天下雑誌の中で機電設備業に分類され、機電設備業の平均営業収益成長率11.26％（製造業の中で第９位）、平均純益は3.25億元（第27位）、平均獲得率6.83％（第14位）、総営業額4,621.151億元（第15位）、平均営業金額は49.17億元（第28位）、94件中第５位にランキングされた。

2017年我が国工作機械パーツ業者は世界の景気成長によって、大部分のメーカーが成長し、政府の５大産業政策「スマート機械」と「自主製造機」策略、及び国際航空産業、自動車市場の需要は引き続き増えており国内工作機械とパーツ業者にとっては良い知らせだ。よって2018年下半期の景気発展は相対的に楽観的な見方ができるが、ただ材料と為替率が依然カギとなるだろう。

表1：**2017年 工作機械パーツメーカー営業収益表**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 工作機械パーツランキング | 製造業排名 | | 企業名 | **2017**  営業収入 **(**新台湾億ドル**)** | 営業収益成長率 **(%)** | 獲得利率  **(%)** | 製品**(**概述**)** |
| **2017** | **2016** |
| 1 | 163 | 201 | 上銀科技 | 211.65 | 31.31 | 12.94 | リニアドライブ、ロボット |
| 2 | 236 | 274 | 亞德克 | 137.18 | 29.15 | 24.06 | 空気圧コンポーネント、ｺﾝﾄﾛｰﾙｺﾝﾎﾟｰﾈﾝﾄ |
| 3 | 303 | 290 | 東台精機 | 97.63 | -0.05 | -2.43 | 工作機械、PCBドリル |
| 4 | 375 | 400 | 程泰機械 | 75.78 | 16.85 | 5.01 | マシニングセンタ、旋盤 |
| 5 | 392 | 396 | 東培工業 | 71.73 | 9.33 | 8.64 | 軸承、軸承パーツ、自動化設備 |
| 6 | 445 | 497 | 台中精機 | 61.8 | 20.75 | - | 旋盤、マシニングセンタ、射出成形機 |
| 8 | 463 | 504 | 友佳國際控股 | 59.11 | 18.29 | 5.08 | マシニングセンタ、旋盤、研削盤 |
| 9 | 536 | 567 | 永進機械 | 47.91 | 15.2 | - | マシニングセンタ、旋盤 |
| 10 | 553 | 613 | 恩德科技 | 44.65 | 20.77 | 2.17 | 木工機、電子設備、工作機械 |
| 11 | 577 | 629 | 亞崴機電 | 42.32 | 16.36 | 4.16 | マシニングセンタ |
| 12 | 603 | 564 | 協易機械 | 40.07 | -4.32 | 1.8 | スタンピングプレス |
| 13 | 615 | 703 | 協鴻工業 | 38.57 | 26.33 | 1.24 | マシニングセンタ |
| 14 | 667 | 657 | 台灣麗馳 | 34.4 | 1.09 | 1.16 | マシニングセンタ |
| 15 | 712 | 752 | 崴立機電 | 31.49 | 11.79 | - | マシニングセンタ、五軸機 |
| 16 | 755 | 852 | 台灣瀧澤 | 28.72 | 21.23 | 4.81 | 旋盤 |
| 17 | 778 | 888 | 高鋒工業 | 27.84 | 22.7 | 2.37 | マシニングセンタ |
| 18 | 783 | 829 | 達佛羅 | 27.68 | 12.89 | 6.14 | マシニングセンタ |
| 19 | 794 | 1040 | 全球傳動 | 27.09 | 55.24 | 7.86 | リニアモーション、ロボット |
| 20 | 832 | 920 | 台灣精銳 | 25.38 | 18.38 | 29.12 | 減速機、パワータレット、ﾛﾎﾞｯﾄｱｰﾑｷﾞｱ |
| 21 | 851 | 1063 | 大銀微系統 | 24.05 | 40.97 | - | リニアモーション、ｺﾝﾄﾛｰﾙｺﾝﾎﾟｰﾈﾝﾄ |
| 22 | 961 | 1017 | 油機工業 | 20.31 | 10.02 | 7.53 | マシニングセンタ、旋盤 |
| 23 | 973 | 1005 | 百德機械 | 19.61 | 3.54 | 6.83 | マシニングセンタ、五軸機 |
| 24 | 997 | 1119 | 福裕事業 | 18.9 | 23.85 | 1.11 | 研削盤、マシニングセンタ、旋盤 |
| 25 | 1128 | 1177 | 穎漢科技 | 15.05 | 8.12 | 9.37 | 彎管機、マシニングセンタ |
| 26 | 1137 | - | 直得科技 | 14.88 | 51.37 | 15.99 | リニアモーション、ロボット |
| 27 | 1157 | 1190 | 慶鴻機電 | 14.45 | 6.56 | 10.59 | 放電加工機、マシニングセンタ |
| 28 | 1294 | 1263 | 榮田精機 | 11.55 | -3.51 | 0.95 | 立型旋盤 |
| 29 | 1313 | 1310 | 建德工業 | 11.24 | -0.62 | 8.45 | 研削盤、マシニングセンタ |
| 30 | 1325 | - | 凱柏精密 | 11 | 74.6 | 2 | マシニングセンタ、旋盤 |

【資料出典：天下雜誌整理（2018.05），PMC整理】

* **産業ニュースの要約**

**昨年台湾機械輸出額は256億米ドル　暦年最高新記録**

【2018-04-27経済日報】

経済部統計処機械産業競争力報告書によれば、我が国機械業は輸出を推進しており、直接輸出は約６割を占めているという。2017年我が国機械輸出額は256億米ドルで、創歴年最高記録、20.6％増加この６年で最も良好だ。

我が国機械輸出は中国大陸を主な輸出市場とし、2017年は中国向け輸出30.4％を占め首位、昨年より５．５パーセンテージ増加；第二位は対米輸出16.0％、対東アジア10か国輸出は14.4％で第三位、第四位は対日本の6.5％だった。

2017年我が国機械輸出は工作機械が13.1％で一位、15.3％増加。半導体、薄型モニター用機械は11.0％で二位、62.9％増、主な輸出商品として大幅増加した。

インダストリー4.0に伴うスマート製造の目標を達成する為、政府は「スマート機械産業推進方案」を推し進めている。その中で2017年株式上場した企業は10件、産業エネルギーと研究開発を積極的に広げたことで、営業収益は年間23.6％増加、固定資産投資は年間39.8％、研究開発支出は年間27.3％増加し、全体の機械業上場企業より良い成績を残した。

**米中貿易戦ゆえに長期策略必須**

【2018-04-27経済日報】

我が国はすでに対中国大陸鋼鉄に向けて反ダンピング、反補助金捜査を進め、同時に米国は米国メーカーの中興通訊向け輸出を禁じる発表を出した。

つづいて台湾以外にも、EU同盟はすでに３月鋼鉄防衛調査を開始し、豪州、メキシコ及びブラジルも中国鋼鉄に対し「反ダンピング」調査を実施、今後他国も加入する可能性がある。台湾もこの調査に加わり、多くの国がこの貿易戦に参加してまるで連合軍のようになっている。；ただし我々は以下いくつかの長期的問題を気にかけている。

第一に、中国が米国の介入に応えを迫られ、国家資本主義の動向と影響が弱まれば、今後10年中国産業の方向性や速度はさらに進み、世界の中心として大きな調整は回避できないだろう。台湾経済及び関連する政治のリスクはどうなるのか？また台湾商の利益は何なのか？

第二に、米中争闘で最も恐るべき領域となる半導体、情報、スマート機械、医療器材、自動化、新エネルギー及びAIほとんどすべてが今の台湾発展に重要であり、将来の潜力的産業、両強力国の争いの中で台湾が受ける影響はいかほどか？という点だ。

**漢翔、23の台湾メーカーと協力　自主製造機初飛行に向けて励む**

【2018-04-25経済日報】

「自主製造機」の初飛行まで797日を控え、漢翔は24日、東台、拓凱など23のチェーンメーカーと契約を結んだ。漢翔理事長廖榮鑫氏は「台湾の高等練習機はエンジン、全機テスト及びシステム整合を含み、自国製造率は55％、イタリア及び韓国を抜いて第一位となった。」　と述べた。

漢翔は去年４月中科院と新高等練習機委託製造契約を締結した。一年の設計企画を通して、仕入れなどの事務的契約を結んだ。理事長廖榮鑫氏は昨日、６月より飛行機の組み立てを始め、2020年６月末には初飛行できるはずだ、と述べた。

「自主製造機」政策に合わせて空軍企画2017年から2028年686億元を予算として当て、66機の新高等練習機を製造、来年９月に最初の原型機を出荷、2020年初飛行を実施する予定だ。

目下、「台湾航A-Team4.0連盟」は100のメーカーを訓練、国機自主製造計画に参加する。漢翔は自主製造を通してサプライチェーン体系をさらに強化し、今後国際航空産業ビッグメーカーTier１のサプライチェーンとなれることを願っている。

**瞄準、中国製造の商機　工作機械工場を大陸に増加**

【2018-04-19経済日報】

スマート自動化の需要は上昇し続け「中国製造2025」の利益を持ち合わせるなか、友嘉、上銀、程泰、亞崴、亞德客などの工作機械とパーツ工場すべて中国大陸に増やし続ける。初期投資金額は合計300憶元を超える。

台湾機械公会はこう述べた、「『中国製造2025』はスマート機械とスマート製造に絞れば、毎年千億の商機を生み出せる可能性がある。市場の有利な点が互いに補完し合い中国大陸『惠台31条』の実施を推進する中、台湾工作機械とパーツ工場の投資がますます多くなると予想される。」

中台企業家のサミットが橋渡しとなって「2018年中台スマート装備製造フォーラム」を開催、数日前、河南鄭州で行われた。友嘉集團グループ、羅昇、亞力士、華銳、凱巨精機など台湾の大手メーカーがおり、みな相次いで河南省との投資計画にサインをした。

その中で、友嘉グループは鄭州の40萬坪に達する「友嘉精密機械園区」に投資するだけでなく、杭州の友嘉機電学院も継続しつつ、現地の人材を育てるべく鄭州に二つ目の機電学院も設立すると発表した。

**友嘉五メーカーが一つに合併し株式上場**

【2018-03-23中央社】

世界三大工作機械製造グループである友嘉グループが株式上場に向けて加速している。総裁の朱志洋氏は16日次のように公布した。「台湾の友嘉、松穎及び勝傑など工作機械５メーカーが今年末ひとつの企業として合併、今年の営業収益170億元に挑戦、国内最大の工作メーカーとなる。

朱志洋氏は次のように述べた、「友嘉は主に世界資源の整合を考慮に入れて合併を推し進めている。台湾を例にとると、グループ傘下にはイタリアJOBS、SIGMA、RAMBAUDI、スイスのPfiffnerなど大手メーカー、自動車関連、航空産業加工設備技術すべて台湾に移動してきており、国内外販売市場の先駆けとなるべく力を注いでいる。

中台スマート設備製造フォーラムが16日鄭州で行われた。友嘉グループは鄭州に「友嘉精密機械産業園区」を計画、総開発面積は2,000ムー（1ヘクタールの15分の1,6.6667アール）これは大陸にある台資企業で最大の工作機械生産基地だ。

朱志洋氏はこう述べる、「世界の自動車、航空産業、エネルギー源、軌道及び半導体産業は生産設備の需要を維持している。」また彼は、今年友嘉工作機械営業収益は10％から15％まで伸びると予想している。

**作機械展規模、記録再更新**

【2018-04-29経済日報】

台湾区工作機械兼パーツ工業会主催する第五回「台湾国際工作機械展」が開催され、５月３日展覧会開催前の国際記者会が開催される。今年参加するメーカーはかなり多く、国内外合わせて750のメーカー、4,300のブースが設けられ、ブース数は前回より７％も増え、規模はさらに記録を更新している。

二年に一度の台湾国際工作機械展を11月７日～11日に台中高鐵特別区に執り行うことを決定した。展覧面積は9.1萬平方メートル、四つの会館に分け、各部門が主催、この展覧会で期待できる商機は100億元、新高記録を更新できると期待できる。

台湾区工作機械兼パーツ工業会理事長の嚴瑞雄氏は次のように述べた「台湾国際工作機械展は『産地サプライチェーンを結ぶ』イノベーション展覧形態、参加するメーカー及び各国バイヤーは肯定の意を示している。今回参加申請したブースは4.600を超え、多くのメーカーが名簿の後列になるのではないかと心配している。

スマート機械とスマート製造ということで、今回の工作機械展のテーマは「製造の連結、未来への稼働」と命名した。

**台中市土地譲渡 産業工場建設**

【2018-05-04経済日報】

土地不足を解決するべく、台中市政府秘書長黃景茂氏は、台中市区域計画を通して大里、福岡に388トンの工業園区を譲渡し、工作機械工場メーカーの予備用地を準備すると発表した。

台湾区工業機械及びパーツ機械工業会調査統計によれば、現在友嘉、程泰、亞崴、上銀、和大、高鋒、東台、百德などの工作機械及びパーツメーカーすべて工場建築計画を持続している。

黃景茂氏は次のように述べた。「中部は工作機械産業の大本営であるし、世界の景気上昇を保つためにも、メーカーは工場建設のための土地を切実に求めている。上述の工業園区は３、4年で正式起動できる予定だ。」

黃景茂氏は次のように説明する。「台湾国際工作機械展が二年ごとに台中で開催されるが、参加するメーカー数は毎回増加している。台中市政府は中央政策に協力するだけでなく、スマート機械推進オフィスの設立、並びにすでに上岡豊洲二期工業区が起動、スマート機械のモデル地域に参列している。」

**鋳造業産学専門クラス高３で実習しながら2万５千、大学卒業後５万元**

【2018-05-08連合報】

雲林科技大学は本日107年度「スマートモデル鋳造産学提携専門クラス」記者会を開いた。教育部の産学提携協力計画サポートのもと、雲林科技大学、西螺農工職業高校、虎尾農工職業高校など３か所の学校と７件の鋳造業メーカーをまとめて、実務人材の需要に向けてスケジュールを組んだ。

台湾鋳造品工業同業工業会理事長の廖坤成氏は次のように述べた。「鋳造産業は国家の重要な基礎産業で、製品は工作機械、自動車、省エネ、民需、航空産業及び生物医学などにも応用される。目下、年産業値は1000億台湾ドル弱、メーカーは約700件以上、主に中部地区に集まっており、従業員は約１万8000人、すでに中小企業を主体として完璧な産業通路をつくっている。」

廖坤成氏は次のように説明する。「現在鋳造産業はすでに自動化、商務電子化の発展に向けて、産業所を養成するためのエンジニアを要しており、産学提携専門クラスを通して人材育成を手掛けたいと思っている。専門クラスの高職生三年生が企業実習に参加し、給与２万⒌000元からの専門技術も持つ正社員として在職しながら雲林科技大学で学び、大学一回生で給与３万元から、各年各級で必要な乙級免許を取得したなら、卒業後は５万元以上も可能だ。」

**工業研究院のスマートマシンボックス　古い器台にインダストリー4.0を導入・**

【2018-05-09中央社】

工業研究院は本日スマート機械展のなかでイァース（laaS）、パース（PaaS）からサース（SaaS）などスマート製造三層からなるアーキテクチャの先進技術を展示、工作機械、運輸装具パーツ二大産業のスマート生産「シチュエーションルーム」、及び印刷電路板産業スマート製造関連技術を現場に持ち込んだ。

工業研究院は次のように述べる。「このスマートマシンボックスを装置し、ただ観測器の接点装置、連結ネット、ネットワーク化設定などのステップを完成させれば、直接情報を観測獲得し情報センターに提供することができる。情報センターは専用ソフトを通して、手軽に産業ライン器台の稼働率とエネルギー消耗率などを把握することができる。

工業研究院は次のように述べた。「精泉科技会社に実際導入後、生産管理度は25％向上、労働時短率50％、ライン停止時間は18％短縮できた；目下この種のスマートマシンボックスは金属加工、ゴム成型、食品機械、紡績機械、包装機械などの設備において応用することができる。

**総統スマート機械を支持　三つの拡大政策を提示**

【2018-05-10経済日報】

台北国際スマート機械及びスマート製造展が９日行われ、総統蔡英文氏は、スマート機械産業の発展に全力を尽くすことを宣言、並びに三つの「拡大」政策すなわち産官学の資源拡大、高等技術人材育成の拡大、及び国産化比重の拡大を提示した。

蔡英文氏はこう述べた。「台湾機械産業の去年産業値は11％成長、1.1兆元まで達した。さらに世界工作機械第４の輸出国だ。将来今ある有利点を発揮して積極的にスマート機械のイノベーションに投入すれば、台湾機械産業は世界を舞台に重要なポジションを維持できるだろう。」

台湾機械工業会理事長の柯拔希氏も続いて述べた。「総統も言及されたスマート機械とスマート製造に重点を置き、具体的な政策方向を練りだしていけば、台湾機械産業は2025年には２兆元の目標をもっと早く達成することができるだろう。」

柯拔希氏は政府がスマート機械人材育成に尽力するほか、台湾機械工業の国産化にも力をいれること、例えば、国産機、国産船、地下鉄、風力発電、ロボット、電子設備など少なくとも国産化60％以上の比率となるよう提案した。

**機械産業値「兆」突破　５∔２産業第一歩踏み出す**

【2018-05-15中央社】

「５∔２」産業は省エネ、国防、生技医療、アジアシリコンバレー及びスマート機械新農業、循環経済などを含むイノベーション計画で、政府の力で上述の産業発展をサポート、台湾の次世代産業成長の核心となるべく動き出す。

**●投資障害を排除　法規300項近くを緩和**

国家発展委員会統計によれば、去年10月から今年４月まですでに282項の法規が緩和された。いま財政経済部会は関連する法規を一つずつ確認、法規を軽くする方向で５月末には300件を超えると推測される。

**●イノベーション産業「（）」開拓**

政府はイノベーション産業「（）」開拓に尽力を注いでいる。国家発展委員会主導のアジアシリコンバレー計画も成果が見られはじめ、去年国内外イノベーショングループが台湾に来て数量は３倍に成長、Iot新設メーカー件数は４割成長した。

**●国防産業イノベーション　内需成長の活性化はかる**

国防産業もイノベーションの一環として加わり、国産船と国産機二分野を包括、国防は自主能力とカギとなる技術を主な目標とするが、さらに重要な任務は、大国防の商機を通して内需を活性化し経済成長につなげることだ。

**中国製造2025　台湾メーカーには利益あるも懸念あり**

【2018-05-17中央社】

「中国製造2025」政策推進のもと、今年台湾メーカーは昆山に輸入交易会を設け、自動化製造設備の資本は良好だ。しかしながら業者及び学者は次のように述べる。「自動化器台関連パーツは依然他国の手中にある。」

友嘉実業グループは杭州友佳精密機械の販売経理、王立柱氏はこう述べる。「友嘉器台の主なパーツは台湾と日本から輸入している。一台の立式デジタル工作機械は６割以上海外からで、大陸メーカーの主な技術は比較的量の少ないパーツと組み立てだ。そのなかで、付属の日本パーツと台湾パーツは異なり、器台の価格は２割差にもなる。

台湾大学スマートロボット及び自動化国際研究センター主任羅仁權氏はインタビューを受けて次のように述べた。「中台ともにスマート設備産業を推し進めているが、共通の悩みは関連パーツ例えばコントロール器、駆動器、減速機など技術ともに手中にないということだ。」

彼は、台湾政府が投入できる資本は大陸ほど多くないが、発展を目標に費用は必要なところには費やすべきで、まさに国際的眼力を持つ専門家が産業をリードして国際的能力を引き出す必要がある、と考えている。

**経済部は中小製造業にAI導入をサポート　今年9000万元’ぶち撒く‘**

【2018-05-18経済日報】

政府は５∔２産業イノベーションをすすめ、その中でスマート機械、経済部は年営業収益30億元以下の中小企業が上場し、集落型製造サプライチェーンがAI応用を導入できるよう協力、今年末前には9000万元を投資、経費が毎年増加するよう、2022年末までに少なくとも20の産業集落、200件以上の中小型製造業者の共同制作を指導する計画だ。

工業局ナリッジサービス組科長吳明徽氏は次のように述べた。「AI応用導入前に、システム設計によってサービス業者計画を整え、工業局は試験場を提供することで、AI導入整体の解決方案能力を育成、目下少なくとも20件の業者が能力を有しており、将来海外向け輸出、自身の「国家隊」を形成することができると期待している。

検査によると、目下重要産業集落は、北部は衣料製品産業、光学製造産業、自動車パーツ産業、電力機械設備業及び電纜業でもって推進している；中部は工作機械産業、家具産業、セーター靴下産業、プラモジュール産業及び金属加工製造業；南部はモジュール産業、薬品産業、モーター産業及び食品産業からなっている。

**機械業2025　２兆元産業目指し励む**

【2018-06-03経済日報】

台湾機械産業は72年という月日を費やしてついに去年、生産総額兆元の関門を突破、1.1兆元になり、台湾第三のビリオン元産業となった。台湾機械工業会は、「将来機械産業はふたつめのビリオン元をスマート製造に託し、2025年総生産額２兆元を目標とする。」と発表した。

台湾機械工業会理事長柯拔希氏は次のように述べた。「世界のオートメーション化、カスタマイズ化が目に見えるようになり、スマート機械とスマート製造の需要が高まる中で、台湾機械産業の今年産業値は去年より10％成長した。」これに対し、機械工業会もスマート機械とスマート製造を確立し、第二の兆元を伸ばすべくスマート機械、スマート製造のダブルで起動、今年「スマート機械ビリオン年」と定めた。

この計画に対応して、機械工業会は７月「スマート機械白書」を正式に発表、スマート機械産業の青写真を発展させ、将来毎年10％の成長率を目指し、迅速に第二のビリオンを達成する予定だ。

**貿易協会、台湾工作機械トップメーカー率いる**

【2018-06-08中央社】

中華民国は外貿易発展協会５つの工作機械トップメーカーに対して、本日よりインドの三大自動車集落ニューデリー、プンデリ、チェンナイで巡回発表会を行う。100名のインド自動車パーツ業者と交流し、台湾のチームを連れてインド自動車メーカーを訪問、提携促進を期待している。

インド駐在の代表、田中光氏は次のように述べた。「インドは世界最大の大二輪車製造国で、第二の大型バス製造国、大三の大型トラック製造国、第四の鉄道製造国、第五の自動車と商務車市場だ。しかも台湾は世界第五の自動車工作機械輸出国、双方が繋がればさらに大きな商機を作り出せるはずだ。」

彼は、インド自動車製造業は台湾の効率よい、価格競争も持ち合わす工作機械製造機を通してさらに多くの利潤を生み、双方の提携はインド市場の開拓のみならず、中東やアフリカまでともに開拓していくことができる。

統計によれば、インド自動車業市場の規模は現在約74億米ドルで、2020年には135億米ドル、2026年にはさらに300億米ドル、年平均成長率15％にまで成長する予定だ。これは台湾でもっと早く力を注ぐべき市場だ。

**スマート機械科技大賞　産官学集まる**

【2018-06-08連合報】

スマート機械科技大賞連合成果発表会が昨日中部科学園区で行われた。会に参加した程泰グループ理事長楊德華氏は次のように述べた。「政府は５∔２産業イノベーション、インダストリー4.0及びスマート機械などの政策を推進して国内自動車、航空産業の発展を引っ張ている。業者は台湾を信頼しており、『世界航空産業の下請け』、『スマート自動車パーツ、車用電子のサプライセンター』となる機会があると考えている。」

成果発表会の出席者には科技部長の陳良基氏、科学園区同業会工業会理事長沈國榮氏、台中市政府専門委員江振瑋氏、陳銘煌氏など170名の産官学代表が集まっていた。陳良基氏は「『スマート機械』は５∔２産業イノベーション政策で、将来、機械製造が人工スマート、ビッグデータ運用などと繋がって、産業のための新たな研究開発一本に注力する」と述べた。

彼は、国内航空産業工業の進歩は非常に速く、漢翔が依頼した自主製造機以外に、欧米の大手メーカーの下請けとなるため多くの世界工業メーカーが慕って台湾のサプライヤーを訪ねて、国内航空産業業者は世界の航空産業代行メーカーとなると信じている、とみている。

**自動化工業展覧会　商機10億か**

【2018-06-09経済日報】

2018台中自動化工業展が昨日、烏日高鐵駅にある台中国際会展覧会センターで盛大に行われた。350のメーカーに800のブースが館内を賑わせ、規模も引き続き新記録をつくり、商機は８億から10億に至るとみられる。

台中副市長の張光瑤氏は次のように述べた。「台中展覧会産業は逐年成長を遂げており、市政府はすでに水湳に国際展覧会センターを建設することも計画している。将来完成した暁には、優れた国際色ある展覧会場を提供し、台中の展覧会産業をさらに成長させることができるだろう。」

経済日報総経理の周祖誠氏は次のように述べた。「今年インダストリー4.0とスマート製造二つを大きな軸としてみれば、世界の景気回復によって、メーカーの展覧会参加意欲も高まり、館内を満席で、何百件のメーカーが展覧会参加に登録したものの入館することができなかった。

台湾機械工業会理事長の柯拔希氏は次のように述べた「台湾機械設備産業の去年総生産額は11％成長し、1.1兆元、新たにビリオン産業となった；台湾工作機械の世界輸出ランキングは、第５位から第４位に上がった。国防、航空産業設備の国産化、自国製の比率は60％以上にまでアップした。

**米中相互に追加関税　台湾機械工作機械業者に恐怖はない**

【2018-06-16中央社】

米国が15日、中国の500億米ドル相当の商品に25％の関税を課すと発表した後、中国も同様の報復を実施、他国もこの米中相互課税が引き起こす貿易戦を懸念している。

台湾機械工業同業会理事長の柯拔希氏は中央社記者の取材を受けて次のように語った。「台湾機械メーカーは中国大陸に工場を設けて、機械製品の主な販売は現地市場をメインとし、台湾機械メーカーの拠点を中国大陸に置いても米中貿易戦の攻撃を受けないようにする。」

工作機械大手メーカーの程泰グループ理事長楊德華氏は、インタビューに次のように述べた。「工作機械産業から見れば、台湾メーカーの米国向け工作機械製品が米国対中国の追加関税の影響を受けることはない。また、台湾メーカーの中国向け工作機械製品は主に現地内需顧客をメインとしており、追加関税の影響はない。」

しかしながら楊德華氏は、「その他の産業から見れば、台湾メーカーは中国に販売している半製品或いはパーツ、現地組み立て加工し米国に輸出する製品は米国の追加関税の衝撃を受ける可能性があるため、引き続き今後を見守る必要がある。

**トランプ、２千億追加課税　台湾石化製造「漁夫の利」？**

【2018-06-19連合報】

米中貿易戦は引き続き盛り上がっている。米国大統領トランプは中国大陸から輸入する総額二千億米ドルの製品に対して課税すると脅威を表すと、大陸商務部は即刻反撃、数量型と質量型合わせて総合的措置を行うとし、さらに大きな反発を招いている。

米中貿易戦は台湾の為替に大きな損益を作り出している。財政部次長、国安基金執行秘書の蘇建榮氏は次のように語った。「国際的要素の影響を受けて、台湾為替は短期的に降下、国安基金は厳密な注意が必要だ。国内産業の影響方面に対して経済部が調査、米国が大陸から輸入している主に四項目製品、機械、電気設備、自動車パーツ、光学義気などは金額が比較的大きいゆえに、もし台湾メーカーが在中工場で生産した後に米国輸出した場合、或いは台湾から輸入したパーツを加工した後米国に輸出した場合、受ける衝撃はより大きくなる。」

漁夫の利のごとく、台湾の石化製品、また標準型工作機械はまだ短期バウンド的効果を獲得できる可能性があると経済部は評価する。

**タイの自動化機械展覧会　台湾ブランド館にフォーカス**

【2018-06-21中央社】

2018タイ国際自動化機械パーツ展覧会が本日から23日まで、バンコク国際貿易展覧会センターで行われた。タイ政府は産業向上におけるThailand 4.0政策推進に際し、自動化は重要な一環で、これら展覧会も重要視している。

　中華民国対外貿易発展協会は台湾ブランド推薦のため、台湾18のスマート製造機械設備メーカーの35品目製品をあつめ、タイ国際自動化機械展覧会に台湾ブランド館を設定、各国のバイヤーやメーカーを魅了した。

参展した18の台湾スマート製造機械設備メーカーには、研華PC、維田科技、艾訊、立端科技、上銀科技、達明ロボット、奇力速、所羅門などのメーカーが含まれる。

その他に、台湾はタイ第11位の貿易パートナーで、両国の貿易額は108億米ドルに達する。政府による「新南向政策」の下、タイはかなり重要な市場だ。